

平成27年度 施策評価表

作成年月日：平28年9月2日	課・グループ名	生涯学習課社会教育グループ
----------------	---------	---------------

施策名	①芸術・文化活動の振興 3-5-①		
1. 施策の現状分析及び展開方向			
政策・施策の体系	大項目	中項目	小項目
	3. 地域に根ざした教育と文化の高いまちづくり	(5) ふるさとの記憶を伝える芸術・文化活動の推進	①芸術・文化活動の振興
①施策のねらいと展開方向	●町民が心豊かな生活を送れるよう、鑑賞の機会や発表の機会など文化事業の充実に努めます。 ●本町における芸術・文化振興の中心的な役割を果たしている文化協会の活動を支援します。		
②施策の現状と課題	現 状	課 題	
	●町民の芸術・文化に対する高まりから鑑賞事業や文化展など各種の芸術・文化事業を文化協会や学校と連携し、実施しています。	●団体の主体的な活動を助長しながら、芸術・文化の向上や文化を振興する団体の育成・支援を図ることが必要です。 ●子ども達の創造性や感受性を育てる文化事業の充実に図ることが必要です。	

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況							
① 成果指標	設定の意図		まちづくりの成果指標名			数値化	
	近隣市町村で開催される舞台芸術鑑賞や文化展の見学を実施することにより、芸術に関心を深めるために設定した。		成果指標 (総合計画・施策評価)	○	可能		
			芸術鑑賞バス参加者数		不可能		
			代替指標 ※成果指標がない場合		未計測		
					指標の設定		
					可能		
					不可能		
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。							
② 指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由
		H24	H25	H26	H27	H28	
目 標	人	80	80	80	80	80	
実 績	人	43	50	41	45		
達成率	%	54.0	62.5	51.3	56.0		
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点	
③ 施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移 (目標達成は十分に可能である)			施策の達成度	近隣市町村との連携を図り、情報収集や発信を行ったが、文化交流バスを利用せず、自家用車で移動するケースも見受けられ、参加者数の大きな増加には至らなかった。	
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移 (目標達成は可能である)					
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている (目標達成が遅れる可能性がある)			B		
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている (目標達成は難しい)					

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】事務事業の種類	【必要性】事務事業の必要性	【妥当性】町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	高い
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果											施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>		
事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H27)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)		事業費(千円)	
					目標	実績						H27実績	H28予算
1	芸術・文化振興事業	(1)	生涯学習課	①来場者数 ②芸術鑑賞バス参加者数	①480	人	1. 芸術(演劇・音楽・人形劇)鑑賞会の開催 2. 近隣市町への文化交流バスの運行 3. シネマサロンの開催 4. 書初め大会、展示会の開催	I	I	1 現状のまま継続	348	普通	
					②80						500		
2	文化協会支援事業	(1)	生涯学習課	事業数	5	回	文化協会に対する補助金の交付	I	I	1 現状のまま継続	402	高い	
					5	回					1,302		
3													
4													
年度別施策全体の事業費合計(千円)													
H27事業費											750		
H28予算											1,802		

②H28に実施した新規事務事業					
実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H28予算(千円)	
1					
2					

評価視点	評価結果		理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	事業構成の妥当性	各事業は、町民が芸術・文化に親しむ機会を広げる観点から効果的である。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)		
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	A	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)		

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)							
①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。ただし、成果指標の設定については、芸術鑑賞バス参加者数ではなく、次年度の評価にあたり町民総合文化展などの出展数及び展示者数並びに観覧者数なども含めて指標の設定を検討いただきたい。	事業の方向性 優先度 A~D (ランク)	事業番号				平成29年度以降の予算の方向性
			A				
			B	2			拡大
			C	1			○ 維持
D					縮小		